令和２年（2020）
阿づまの光
1月号・Januaro

【厳の郷土＋元屋敷土＋厳の郷産井の水・元屋敷松＋元屋敷梅＋厳の郷松＋厳の郷梅釉】

教主さまお作　「厳の郷（いづのさと）」

少し貧しく、少しひもじく、少し寒く

大本本部長　鈴木穎一

最近の気象変動は、巨大台風、洪水、山火事、熱波などが多発している現状を見れば、変動を通り越して、気象危機というべきであると提唱した人がいる。日本も例外ではなく、最近の自然災害には、目を覆いたくなる。気象温暖化とは直接の因果関係にはないと、力説した学者もいたが、この気象危機を目の当たりにして、その声も小さくならざるを得まい。

温室効果ガスの大排出国でありながら、パリ協定を離脱したアメリカ、削減に積極的でない中国、彼らを大国のエゴと片付けられない微妙な立場にいるのが、日本である。それは福島原発事故に起因する、放射能に対する恐怖である。

電力消費量国別ランキングは中国、アメリカ、インドに次いで日本は第４位である。電力の全量を、太陽光発電などの再生可能エネルギーと原子力発電、水力発電で賄うことができれば、温室効果ガスの発生はゼロになると言われる。しかし、日本では、水力は頭打ち、原発には強いアレルギーがある。現在51基の原発施設があるが、稼働しているのが９基、最近、さらに１基が安全基準審査をパスしたということだが、これも最終的には住民の承認が必要である。

元より原発は大本にとって到底受け入れることはできない。昨年11月に来日した教皇フランシスコ台下も原発に対しては否定的で、「個人的な意見だが、安全性が保障されなければ、原発は使用したくない。日本の司教らは原発廃止を求めている」とコメントした。

一方、現在の太陽光発電技術には決定的な欠点がある。それは夜間は全く使えず、雨の日、曇りの日は発電力が落ちてしまうことだ。日本の場合、代替エネルギーとして原発は使えない。その分、化石エネルギー即ち石炭、石油、ＬＮＧに頼っているが、昨年12月に開催されたＣＯＰ25では、石炭火力の存続の選択肢を保持した日本に対し、「化石賞」という不名誉が贈られた。

放射能のリスク、ＣＯ２のリスクの二つを同時に解消するには、大容量の蓄電池の開発が待たれる。と同時に、出口直日大本三代教主さまが提唱された『少し貧しく、少しひもじく、少し寒く』の実践を忘れてはならない。

題字出口直日
通巻第６１０号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子恒
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

とことはの神の御国に世の人を
救ふはまことの愛善の道

出口王仁三郎聖師

1つの神・1つの世界・1つの言葉を目指して

～人類愛善会の歴史と現代～

出口王仁三郎は、大正14（1925）年、「万教同根」を説き、「神とともに生き、働き、楽しむ愛善世界の実現は、人類の使命である」として、人類愛善会を創立しました。90年以上の歴史を経て、王仁三郎の理念は、現代に何を教えてくれるのでしょうか。

大本は神の経綸によって出現し、万民和楽の世、「みろくの世」の建設のための神業を進めることに使命が与えられています。この「みろくの世」実現に向かって、宣教活動（教え）を経に、愛善運動（実践活動）を緯として活動しており、この二つの活動が相まってはじめて「みろくの世」の実現へと至ると示されています。

人類愛善会の設立

出口王仁三郎聖師は真の世界平和実現の方法は、各宗教間にわだかまる「無形の障壁」を取り除き、相互理解を深めることが重要と説いて、大正12年に道院と提携、翌年にモンゴルを訪問、大正14年に中国・北京において、「世界宗教連合只会」を発会。同年6月には、王仁三郎聖師は綾部において自ら初代総裁に就任して「人類愛善会」を創立、人群万類愛善と万教同根の理念を高く掲げて、今後人類の進むべき道を示されました。

世界の恒久平和を築くため人類愛善会が推進してきた3つの活動、それは、一つの神（万教同根）、一つの世界（世界連邦運動）、一つの言葉（エスペラント語）と端的に表現されます。

人類愛善会と世界連邦運動

王仁三郎初代総裁の後を受けた出口すみこ二代総裁は「みちとせの神の経綸のあけがらす世界平和の道はこのみち」と詠まれ世界連邦運動に参加。人類愛善会員は躍動して地域の人たちに働きかけ、昭和25年綾部市は国内第1号の世界連邦平和都市を宣言しました。第2号は昭和30年の亀岡市が続きました。昭和50年には、出口直日三代総裁の大会長のもと「第7回世界連邦平和促進宗教者亀岡大会」を開催し三千数百人が参加。その時のテーマ「世界連邦を21世紀までに」は、その後の世界連邦運動の指針とされました。

世界連邦では、各国は今と同じように国内問題を処理しますが、他国との関係については権限を与えられた世界連邦機構が統治することになります。国連憲章を改正して、世界連邦議会、世界連邦政府、世界連邦警察、世界連邦裁判所を設置することで人類全体の共通問題に対処するのです。

人は各国の国民であると同時に世界市民でもあります。王仁三郎初代総裁は世界の将来について、世界は12ブロックの地域連合に分かれると予言しています。英国の離脱問題で揺れるEU（欧州連合）ですが、EUの統治機能は世界連邦のモデルになるものと考えます。

核兵器のない世界へ

今年5月、世界連邦日本大会が東京で開催され、基調講演に川崎哲ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）国際運営委員が登壇されました。川崎氏は、「核兵器は非人道的な兵器であり全面的かつ完全に禁止するには、核の傘に守られている国と国の問題ではなく、核戦争になれば勝者も敗者もなくすべて敗者なのだとの認識のもとに、個人と個人の問題と捉えて活動を開始すべきである。核兵器は『力のシンボル』から『恥のシンボル』へとなる日が必ず来る。そのために、一人一人がこの問題解決の役割を担っていると考える」と力説されました。

全世界に現存する核弾頭は昨年9月現在で14450発。このうち、アメリカ、ロシア、中国、イギリス、フランスの5カ国で全世界の97％の核弾頭を保有しています。この5カ国は国連の中で大きな権限をもつ安全保障理事会の常任理事国です。現在の枠組みの中では世界平和の取り組みの中枢にある5カ国が核のほとんどを保有しているという矛盾にあります。世界の人達が早くこの事実の認識に立って、核兵器廃絶への理解と行動を示す時ではないかと考えます。

広島、長崎の被爆者の方々の絶え間ないご努力と、世界中の心ある人たちが動きだし、それが統合され、より大きなエネルギーとなって、平成30年7月に核兵器禁止条約が採択されました。日本は世界で唯一の被爆国でありますが、安全保障上の核の傘のもと、条約への参加を決めておりません。「核なき世界」を目指し、二度と広島、長崎の惨禍をくりかえさないために、人類愛善会も「核兵器廃絶国際署名」に賛同し協力しています。大本・人類愛善会のホームページからも署名のサイトに入れますので、皆さまもご協力お願いします。

自国第一主義を声高に主張する国家元首の出現などで、世界連邦の理念の下に世界が統合される道筋が見えにくい現実はあると思います。しかしICANの川崎氏の言葉を借りるならば「核兵器の廃絶問題は、実は国と国の問題ではなく、個人と個人の問題である」と主張されているように、個人の意識を変え、自ら行動することが大事なことと思います。「私は世界連邦運動に参加しています」「私は核兵器廃絶に賛成です」としっかりと主張できるようにしていくことが重要だと思います。

～21世紀・生きがい講座～

小林龍雄
人類愛善会理事

食品ロス問題

今年の節分では縁起の良い方角に向かって食べる「恵方巻」の大量廃棄が問題になりました。

出口紅総裁は10年以上前からこの食料廃棄問題に警鐘を鳴しています。

日本の食品ロスは年間に646万トン、一日に換算すると一人一日お茶碗一杯分を廃棄していることになり、国連による食料援助量の約2倍です。

世界人口76億人のうち栄養不足の人は約8億人、アジアが6割です。世界人口の9人に一人が栄養不足です。世界では栄養不足で5歳まで生きられない子供が年間500万人もいます。

日本の食料自給率は38％ですから先進国では最低の水準にあります。62％は輸入していることになり、大量輸入し大量に廃棄する恥ずべき状況にあります。

食品ロス削減法が5月に国会で成立しました。法律の中で10月を「食品ロス削減月間」と定めています。ようやく、国として本格的な対策が動き出してきましたが、国民運動として取り組んでいこうとの姿勢を示すための法律です。当然実効性は、一人ひとりが具体的な行動をとらなければ、結果に結びつきません。

コンビニは食品ロス対策が急務な企業です。デイリーフーズと呼ばれる、おにぎり、お弁当、サンドイッチは一日に3回、配達され時間を切って廃棄処分されます。コンビニはフランチャイズ契約でパッケージ化されていますので、うちの店は消費期限を延ばしたいなど勝手はできず、一律に決められています。食品ロス対策として消費期限が近いものにはポイントを多く付けることで、実質値引き対策をとるところも出てきています。

昔は嗅覚や味覚で食品の鮮度を測っていました。数字よりもよほど正確ですし、確実なのではないかとも思います。人間の五感をしっかりと食品ロス対策に生かしていただきたいと思います。長野県松本市では2011年から30（さんまる）・10（いちまる）運動という取り組みをしています。宴会の開始30分と終了10分前は食事に集中しよう！　というもので、これが全国に拡がると素晴らしいと思っています。

プラスチックごみ問題

急速に動き出したプラスチックごみ問題ですが今年のG20エネルギー・環境閣僚会合で、海洋汚染を引き起こすプラスチックごみ（廃プラ）について、各国が対策を定期的に報告する枠組みの新設などを盛り込んだ共同声明を採択しました。日本がホスト国ですから、ひとまずイニシアチブをとった格好です。

日本に限らず、北半球の熱波など世界中が今までにない気象の異変に見舞われ、それが年々加速し、ニュース映像では目を疑うような光景を目の当たりにします。その原因は地球温暖化だと言われていますが、今世界的に問題となっている大量のマイクロプラスチック（MP）による海洋汚染をはじめ、その他さまざまな環境問題も、元はといえば人類自らの利益や利便の飽くなき追求に起因するものです。

自然環境のみならず、子孫に引き継ぐべき未来の環境をも破壊し続けることに対する責任は、私たちが負うべきであり、自分自身の日常の在り方そのものを問い正し、生活を根本的に見直さなくてはなりません。

海洋プラスチックごみ発生量の1位から4位が中国、インドネシア、フィリピン、ベトナムの東・東南アジア諸国です。

MPは北極海や南極などでも発見されており、政府の試算では世界の海には5兆個以上が漂っていると推定されています。特に、日本周辺の海では濃度が高く、世界の平均の27倍にも達し、日本周辺海域はMPのホットスポットになっています。

世界に率先して良い型を

人類愛善会本部のある亀岡市が、昨年12月、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をし、全国の自治体に先駆けて、2020年度までに市内のレジ袋の使用を禁止する条例を施行する方針を決め2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロの町を目指すとしています。

出口紅総裁はこの取り組みを、「近年、国際問題になっていますプラスチックごみの海洋汚染に対する、大きな一歩となりますように期待するとともに、大本・人類愛善会としましても積極的に協力して、環境の問題に真剣に取り組んでまいりたいと存じます」と述べています。

私たちは一つひとつ愛善活動を積み重ねて、日本に、世界に、率先して良い型を出していきたいと思います。

※MP＝5㎜以下の微細なプラスチックごみ

掲載文は、令和元年6月19日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は12月8日午前10時30分から、斎主・加藤道明祭務課長のもと執行され、301人が参拝。祭員は関東教区青年部員が、少年祭員は玉置巴さん、池田心音さん、渡邉真仁さん、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読を大久保照子青年部員が、添釜は神奈川主会が担当した。

祭典後、鈴木穎一大本本部長があいさつ。令和2年度の「教団方針」にふれながら、青年層など今後のさらなる後継者育成の重要性を強調。また、全国主会長・人類愛善会協議会長会議で発表された「大本歴史資料美術館」建設に向けて、長生殿造営時代から構想されていた、梅松苑隣接地の用地取得、開祖さまのご神霊・稚姫君命を祭神とする「綾機神社」建設の構想を交えながら、「綾の郷献金」への協力を呼びかけた。

東光苑葬祭研修会

東光苑葬祭研修会は11月23・24の両日、東京宣教センターで開催され、12人が参加した。

研修会では、2日間にわたり葬儀の執行について実習を中心に研修。「葬儀執行の流れ」、また「斎場調度品について」の説明や、「招魂式」「発葬式・火葬式・家祭式」「毎十日祭」「五十日祭・合祀祭」など、実際の葬祭を想定しての準備や流れ、祭式作法までを詳細に学んだ。

また、建碑埋骨祭の実習では墓石の模型を用いて筆代行事による入魂や遺骨を埋骨する作法などを受講。普段体験することの少ない模擬墓前祭も体験した。

初日の夜間に開かれた「質疑応答」では、参加者から葬儀に関する質問のほか、埋骨・納骨や寄せ墓について、墓前祭での疑問点など熱心な質問があり、研修を深めた。

21世紀・生きがい講座

第201回21世紀・生きがい講座は11月20日、港区新橋の航空会館で開催され、谷本真邦（世界連邦運動協会執行理事・世界連邦日本国会委員会事務局次長）が、「平和になるはこの道」～世界連邦の実現を目指して～と題して講話した。受講者は30人。

谷本講師は、大本が世界連邦運動に注力してきた70年の歴史にもふれ、世界連邦の設立された経緯、現在の世界連邦の状況を説明。世界で起こる超格差社会、貧困病苦、紛争、自然災害などの現状を紹介しながら、その改善に向かっての国連によるSDGsの取り組みを紹介。「世界の人々が平等で平和に暮らすことを目標とした17項目の社会運動は、まさに世界連邦の地ならし」と語り、世界平和実現のため重要な運動として、世界連邦政府樹立の重要性を述べた。

参加者からは「世界連邦の存在理由や将来の展望等がよくわかりました」「みろくの世実現の為に有用な手段として世界連邦があると知ることが出来た」などの感想が寄せられた。

東光苑教本認定講習会
～み教えを正しくお伝えするために～

教本講師・講師補認定講習会

日　時：2月22日（土）午前9時30分
～24日（月・振休）正午まで
会　場：大本東京本部・東光苑
対象者：教本認定講師補・1級取得者
定　員：10人（通いでの参加も可能です）
参加費：5,000円（2泊と食費分の経費等）
※実践リーダー教本「上級編」（990円）を
お持ちでない方は別途ご購入いただきます。
持ち物：実践リーダー教本「上級編」、筆記具 等

教本各級認定講習会

日　時：2月23日（日）午前9時30分
～24日（月・振休）午後3時半まで
会　場：大本東京本部・東光苑
対象者：教本認定級未取得者（初級）
教本認定2・3級取得者（中級）
定　員：30人（通いでの参加も可能です）
参加費：3,000円（1泊と食費分の経費等）
※実践リーダー教本「初級編」（525円）、
「中級編」（734円）をお持ちでない方は、
別途ご購入いただきます。
持ち物：実践リーダー教本「初級編」、「中級編」
筆記具、宿泊用具 等

申込み：東京宣教センター 愛善宣教課
TEL 03-3821-3701　FAX 03-3821-5283
Mail t-kakizaki@oomoto.or.jp
担当：愛善宣教課・柿崎 哲男
締　切：2月15日（土）

～21世紀・生きがい講座～
大本東京本部で開催に！
～ 会場変更のお知らせ ～

航空会館（東京都港区新橋）を会場に開催してまいりました「21世紀生きがい講座」は、**令和2年1月から、大本東京本部・東光苑**（東京都台東区池之端）に会場が変更となります。より身近な会場となりました同講演会に、みなさまのご来場をお待ちしております。

大本・人類愛善会　東京本部

2月 東光苑祭典・行事予定

3日（月）午後6時30分執行
開教128年節分大祭遥拝祭
二代教主・四代教主聖誕祭

9日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・豊年祈願祭
市杵島姫命例大祭・合格祈願祭

19日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（大本東京本部）
講題　永遠を見すえて今を生きる
～死は終わりではない～
講師　橋本伸作（東京宣教センター次長）

22日～24日（土～月・振休）午前9時30分
教本講師・講師補認定講習会

23日・24日（日・月振休）午前9時30分
教本各級認定講習会